

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議 ワーキンググループ全体会合（第3回）の議事要旨

日時：令和3年12月3日（金）17：30～19：00

場所：美浜町役場

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町
関係府省庁 内閣官房、文部科学省
電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電
オブザーバー 小浜市、若狭町、福井県経済団体連合会
事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

議事概要

- ・地域の将来像と実現に向けた基本的な方向性についての説明
- ・意見交換

これまでに開催した共創会議及びワーキンググループでの意見交換を踏まえ、事務局が提示した「将来像の実現に向けた基本方針」、「将来像の実現に向けた国等の取組例」について、意見交換を実施。

参加者の主な意見

（1）将来像の実現に向けた基本方針について

- ・基本方針の内容は、これまでの共創会議やワーキンググループでの議論を踏まえており評価。
- ・将来像の実現に向け、立地地域が尽力することは当然であるが、対応・克服困難な課題も存在。国や電力事業者の主体的、積極的な取組・支援が必要。立地地域、国、電力事業者が共に協力し、共創していくとの視点が不可欠。
- ・国と電力事業者は、将来像の実現のため、主体的に実効性をもって取り組むことを期待。

（2）将来像の実現に向けた国等の取組例について

- ・取組例について、進捗や改善事項を定期的に共有し、実効性を担保する仕組みが必要。
- ・列挙されている取組のうち、早期に着手可能なものは、来年度予算で実施してほしい。

- ・ JR小浜線が減便され、嶺南地域の連携・交流に影響が生じているところ、ゼロカーボンである燃料電池バスを代替運行すれば、新幹線敦賀開業効果を嶺南地域全体へ波及させることができると期待。また、水素関連の国の研究機関の誘致をお願いしたい。
- ・ 敦賀港の長期構想で、港の北側をエネルギー拠点とする姿を描いている。水素の専焼発電所と組み合わせて実現できないか検討いただきたい。
- ・ 嶺南大のゼロカーボン交通の拡大は、地域一帯となった取組として広く情報発信することができるかと期待。
- ・ 公共交通機関の高度化、防災道路の多重化、強靱化、避難道路の整備等を早急にお願したい。
- ・ カーボンニュートラル実現のため、安全最優先のもと、原子力発電の持続的な活用に向けて、国と電力事業者は主体的に取り組んでほしい。
- ・ 原子力はゼロカーボン電力、嶺南地域はゼロカーボンエリアであると、国から積極的な情報発信をお願いしたい。
- ・ 蓄電施設や水素貯蔵を備えたスマートグリッドを構築することにより、嶺南地域は停電の発生しない安心・安全な地域、カーボンニュートラル100%地域として、発信していくことも一案。
- ・ 嶺南地域で製造された製品について、ゼロカーボン製品として認定されるような仕組み作りが有効ではないか。
- ・ 電力事業者には、地域振興のための具体的なプロジェクトのご提案をお願いしたい。発電事業に関するものだけでなく、地域の一員として、ウィンウィンの関係を築きながら実施できる取組みを提示いただきたい。
- ・ 地域のため、地域の一員として、電力事業者としてどのような貢献ができるのかといった視点から検討を行っている
- ・ 原子力と地域をゼロカーボンでつなぎ、ブランディングし、嶺南地域の先進化に貢献したい。
- ・ 原子力発電所の立地地域について、様々な施設や取組が充実し、幸せなエリアであると地域住民が実感できるよう取り組んで行きたい。
- ・ 試験研究炉について、京大炉が期限を迎えるので、早期完成を改めてお願いしたい。
- ・ 試験研究炉が人材育成や地域経済の活性化にどのように繋がっていくのか、早期に示してほしい。若く優秀な研究者や意欲のある企業が集まる夢のある施設になることを期待。
- ・ もんじゅの廃止措置の際、もんじゅ周辺地域は高速炉研究開発の拠点と位置付けられた経緯があることから、共創会議で、具体的な道筋を示してほしい。
- ・ もんじゅ、ふげんの廃止措置を着実に進め、得られた知見・経験は、今後の廃止措置のみならず、次世代炉や高速炉を含む革新炉等に活用できるよう、共有していきたい。
- ・ 原子力リサイクルビジネスには規制面や事業リスクなどの課題が存在。国家プロ

ジェクト的な意味合いを持って、全国初のビジネスモデルを国も一緒になって検討してほしい。

- ・原子力リサイクルビジネスは、社会的に意義のある事業。安全第一に、事業者、国、自治体が一体となり、進めていきたい。
- ・一過性の集客にとまらず、地域の成長にどう結びつけて行くことができるかといった観点から、効果的な観光のあり方を検討していきたい。